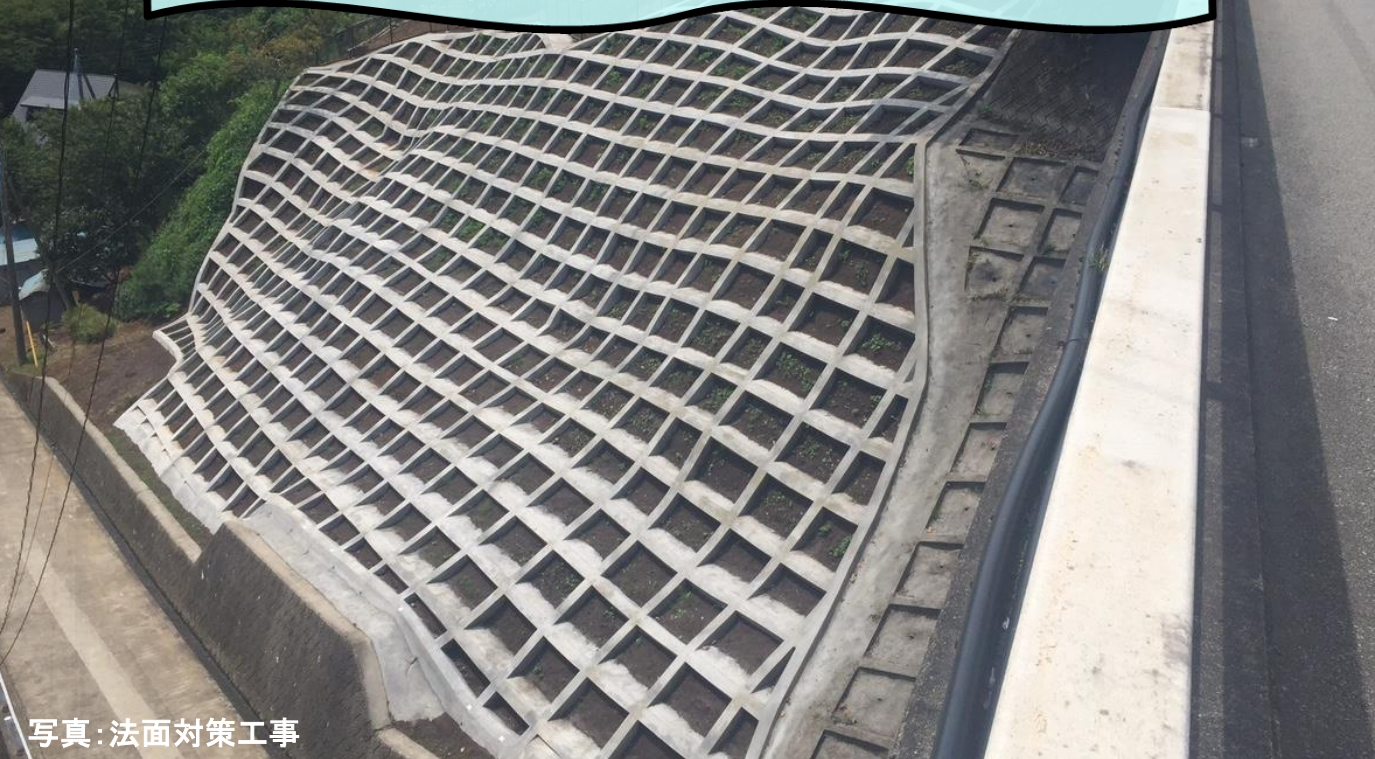


災害から農村を守るために 農村地域防災減災事業 道志地区



写真：法面对策工事



・道志村について

道志村は山梨県南東部に位置し、横浜市の水源にもなっている豊かな水資源を有した、関東圏からの観光客が多く訪れる村です。

地形は村の中心に一級河川の道志川と国道413号が通り、北に道志山塊、南は丹沢山塊と1000m級の山に囲まれています。

・農村地域防災減災事業「道志地区」の事業内容

○総事業費	9.5億円
○工期	平成25年～平成30年
○工種	用排水路 2,635m 土留工 7箇所 防火水槽 6基 橋梁の耐震化 1箇所

・農村地域防災減災事業とは？

農村地域防災減災事業とは、地震・集中豪雨等による災害を防止し、農村地域の防災力の向上を図るための、総合的な防災・減災対策を実施する国の補助を受けた事業です。

実施内容の主な工種については用排水施設、ダム・ため池、避難道路、地すべり防止施設等です。

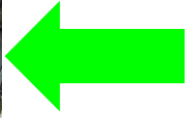
近年ではため池の整備について、従来よりも整備可能な内容が充実され、防災減災対策の一層の促進をはかっています。

・富士東部地域の農村地域防災減災事業

道志村のある富士・東部地域では現在、農村の安全・安心した生活実現のために、以下の4市村で農村地域防災減災事業を実施しています。

実施内容については用排水施設やため池の改修、避難道路、地すべり防止施設の設置など、多岐にわたっています。

- ・富士吉田市
- ・大月市
- ・上野原市
- ・道志村



◎法面対策（湯本地区）

施工前の法面は不安定な状態で、大雨や台風の際に崩落が起きていました。法面下には農地や農道、法面の上には民家があり、大規模な崩落の際は甚大な被害が発生するおそれもあったことから、法枠によって法面を保護する工事が実施されました。写真は工事後約2ヶ月後の緑化した状況です。

？法枠とは？

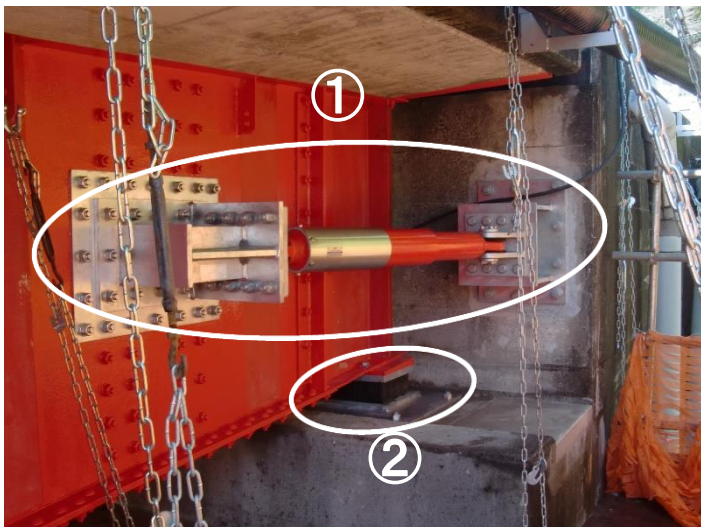
斜面上に格子状のコンクリートを造成し、斜面の安定を図る工法です。

◎土砂崩壊防止対策（戸渡地域）



農地や民家の裏に山林が迫っており、大雨や台風の際に土砂の崩落や落石が農地や民家に被害を与えるおそれがありました。そのため落石をネットで止める工事で、大岩を山肌から落下しないよう押さえつける工事が行われました。これは傾斜が急な山の中で行われることが多い工法です。

◎大栗橋耐震補強対策



村の農道大栗小善地線の大栗橋において、耐震対策工事が平成29年に行われました。昭和61年に建設された当時と現在では橋の設計基準が変わっており、当時の設計では近年起きている大地震には耐えられないことから、新しい基準に基づいた対策が施されました。写真の①は、油の圧力を利用して揺れを軽減する装置（制震ダンパー）です。②は、ゴムが変形し振動を軽減する装置（ゴム支承）です。この2つの装置によって耐震性が向上し、橋の安全性が確保されました。